



持続可能な開発

民主主義・平和

〈高校生の私が考えること〉

津田塾大学創立125周年記念事業  
津田梅子生誕160年記念事業 2024年度 第24回  
高校生エッセー・コンテスト

作品集



津田塾大学  
TSUDA UNIVERSITY



ケニアの環境活動家、ワンガリ・マータイさん(1940—2011)は、生物学者を志し、アメリカの大学に留学。帰国後、ナイロビ大学で東アフリカ出身の女性として初めて博士号を取得しました。日本では「モッタイナイ」を広めた人として知られていますが、アフリカ各地に5000万本以上の植林をした「グリーンベルト運動」の創始者です。「持続可能な開発と、民主主義、平和への貢献」により、2004年、アフリカ人女性としては初めて、ノーベル平和賞を受賞しました。

次の英文は、マータイさんのノーベル賞受賞スピーチの抜粋です。アフリカの砂漠化や干ばつといった環境問題が、実は貧困や紛争とも関連していること、持続可能な開発こそが貧困撲滅や女性の地位向上、民主化や平和にもつながることを説いています。マータイさん自身、人権保護や民主化を求める活動で、政府からの弾圧をたびたび受けていました。しかし、そうした苦難を乗り越えて国会議員や環境副大臣になり、地球の未来のために闘い続けたのです。

ノーベル賞受賞演説から、20年が経ちました。マータイさんは、人類が新しい思考や意識へと移行する必要性を呼びかけていましたが、残念ながら地球環境問題はより深刻さを増し、民主主義や平和を揺るがす出来事はいまま世界各地で起きています。

いま、私たちに何ができるでしょう。マータイさんのスピーチから、みなさんは何を思うでしょうか。

地球規模の大きな問題を前にすると、一人の高校生として考えること、できることには限界を感じるかもしれません。しかし、マータイさんは未来を担う若者のエネルギーと創造力に希望を抱いていました。

自分自身の問題や経験に引き寄せながら、みなさんの思いや考えをエッセーにしてください。

## Index

課題文 .....	2	優秀賞作品 .....	6
入賞作品 .....	3	募集要項 .....	10
講評 .....	4	応募者在学校一覧 .....	11
最優秀賞作品 .....	5		



# 持続可能な開発・民主主義・平和

## ～高校生の私が考えること～

Wangari Maathai held her Nobel Lecture December 10, 2004, in the Oslo City Hall, Norway. She was presented by Professor Ole Danbolt Mjøs, Chairman of the Norwegian Nobel Committee.

マータイさんはアフリカ女性としては初のノーベル賞受賞者でした。その意義や感謝から始めたスピーチは、次のように続きます。

In this year's prize, the Norwegian Nobel Committee has placed the critical issue of environment and its linkage to democracy and peace before the world. For their visionary action, I am profoundly grateful. Recognizing that sustainable development, democracy and peace are indivisible is an idea whose time has come. Our work over the past 30 years has always appreciated and engaged these linkages.

アフリカの女性たちが置かれた厳しい現実を見て、マータイさんは「グリーンベルト運動」を創設しました。

In 1977, when we started the Green Belt Movement, I was partly responding to needs identified by rural women, namely lack of firewood, clean drinking water, balanced diets, shelter and income.

The women we worked with recounted that unlike in the past, they were unable to meet their basic needs. This was due to the degradation of their immediate environment as well as the introduction of commercial farming, which replaced the growing of household food crops. But international trade controlled the price of the exports from these small-scale farmers and a reasonable and just income could not be guaranteed. I came to understand that when the environment is destroyed, plundered or mismanaged, we undermine our quality of life and that of future generations.

So, together, we have planted over 30 million trees that provide fuel, food, shelter, and income to support their children's education and household needs. The activity also creates employment and improves soils and watersheds. Through their involvement, women gain some degree of power over their lives, especially their social and economic position and relevance in the family. This work continues.

次第にグリーンベルト運動は民主化や平和を求める活動にも発展していきます。

Although initially the Green Belt Movement's tree planting activities did not address issues of democracy and peace, it soon became clear that responsible governance of the environment was impossible without democratic space.

Through the Green Belt Movement, thousands of ordinary citizens were mobilized and empowered to take action and effect change. They learned to overcome fear and a sense of helplessness and moved to defend democratic rights.

そして、マータイさんは呼びかけます。

It is 30 years since we started this work. Activities that devastate the environment and societies continue unabated. Today we are faced with a challenge that calls for a shift in our thinking, so that humanity stops threatening its life-support system. We are called to assist the Earth to heal her wounds and in the process heal our own – indeed, to embrace the whole creation in all its diversity, beauty and wonder. This will happen if we see the need to revive our sense of belonging to a larger family of life, with which we have shared our evolutionary process.

In the course of history, there comes a time when humanity is called to shift to a new level of consciousness, to reach a higher moral ground. A time when we have to shed our fear and give hope to each other.

That time is now.

変革をもたらすために、マータイさんは若者に期待を寄せていました。

I would like to call on young people to commit themselves to activities that contribute toward achieving their long-term dreams. They have the energy and creativity to shape a sustainable future. To the young people I say, you are a gift to your communities and indeed the world. You are our hope and our future.

© The Nobel Foundation 2004

ノーベル賞受賞スピーチより抜粋。全文は以下を参照ください。

<https://www.nobelprize.org/prizes/peace/2004/maathai/lecture/>

マータイさんについて書かれた本や著書は多く出版されていますので、よかったら手に取ってみてください。



# 入賞作品

応募作品231編(内訳:英語作品86編、日本語作品145編)  
選考の結果、次の方々が最優秀賞・優秀賞に選ばれました。(アルファベット順)

## 最優秀賞

(1名)

桃山学院高等学校 1年生(大阪府)

米津 凜奈さん

(日本語)

## 優秀賞

(4名)

遣愛女子高等学校 2年生(北海道)

駒野 暖さん

(日本語)

頌栄女子学院高等学校 1年生(東京都)

野口 なゆみさん

(英語)

神戸大学附属中等教育学校 2年生(兵庫県)

櫻井 海斗さん

(英語)

女子学院高等学校 1年生(東京都)

清水 知佳さん

(日本語)

## 第24回高校生エッセー・コンテスト審査委員

委員長 / 吉田 真理子 津田塾大学 ライティングセンター長 学芸学部英語英文学科教授  
委員 / 丸山 淳子 津田塾大学 学芸学部多文化・国際協力学科教授  
委員 / 大原 悦子 津田塾大学 ライティングセンター客員教授





## 講 評

高校生エッセー・コンテストは、津田塾大学創立100周年を記念して2000年に始まり、今年で24回目を迎えました。英語の課題文を読み、日本語か英語のどちらかを選んでエッセーを書くというのが特色となっています。

今年の課題文は、ケニアの活動家であるワンガリ・マータイさん(1940-2011)が2004年、アフリカ人女性で初めてノーベル平和賞を受賞したときのスピーチでした。日本語の「MOTTAINAI」を環境を守る世界共通語として広めることを提唱したことで知られるマータイさんは、アフリカ各地に5000万本以上の植林を進めた「グリーンベルト運動」の創始者です。スピーチでは、アフリカの砂漠化や干ばつといった環境問題が貧困や紛争とも関連していること、持続可能な開発こそが貧困撲滅や女性の地位向上、民主化や平和にもつながることを訴えています。マータイさんのスピーチから、ちょうど20年となる現在、残念ながら地球環境問題はより深刻さを増し、民主主義や平和を揺るがす出来事はいまま世界各地で起きています。

今回のコンテストのテーマは「持続可能な開発・民主主義・平和～高校生の私が考えること～」でした。高校生として「自分自身の問題や経験に引き寄せながら」エッセーを書くというのはなかなかチャレンジングであったと思いますが、マータイさんのメッセージの意味することを懸命に考え、自身の体験に引き寄せ、自分のことばでしっかりと表現した作品が評価されました。

231編の応募作のなかから最優秀賞に選ばれたのは、米津凜奈さんの作品です。マータイさんのスピーチを読むことで、自身が小学3年のとき理科の授業の一環として取り組んだ「モンシロチョウの卵を育てる」という課題が、次第に命に対する責任をもつという大きな目標達成へとつながったことを思い起こし、「どんな小さなことでも一生懸命続けていると、周りの人たちと一体となり、初めのうちには見えていなかった大きな事柄も達成することができる」という気づきを得ています。命を育てるという自身の身近な経験とマータイさんの活動との本質的なつながりに着目したエッセーの構成力、表現力が高く評価されました。

優秀賞に選ばれたのは、駒野暖さん、清水知佳さん、野口なゆみさん、櫻井海斗さんの4つの作品でした。日本語のエッセーでは、身内の方のケアに関して声を上げアクションを起こしているご自身の経験、小さい頃から森や生き物に親しんできた身近な経験、をとおしてマータイさんの活動を考える日本語での論の展開が評価されました。英語のエッセーでは、エッセーの最後にマータイさんのことばで締めくくる論の展開、自身の主張を英語で読み手に届かせる説得力のある表現と構成、が評価されました。

マータイさんはスピーチで、若い人たちに期待を寄せています。

“To the young people I say, you are a gift to your communities and indeed the world. You are our hope and our future.”

このたびの受賞を機に、これからも持続可能な未来をつくっていく努力を続けていってください。

2024年度高校生エッセー・コンテスト審査委員長・ライティングセンター長

学芸学部英語英文学科教授 吉田 真理子



最優秀賞



桃山学院高等学校 1 年生 (大阪府)

## 米津 凜奈 さん

私が小学 3 年生のとき、理科の授業で、学年全員でたくさんのモンシロチョウの卵を育てて、幼虫から羽化させ、その成長過程を観察するという授業を受けたことがありました。初めのうちは、「いもむしが気持ち悪い!」と言って、観察すること自体を拒否する人がいたり、必要以上に幼虫を触って遊んでいる人がいたり、授業どころではありませんでした。

しかし、時間が経つにつれて、多くの人が真剣に授業に向き合うようになっていきました。しだいに、他の学年の人たちや大勢の先生が、幼虫を見るために教室に来るようになり、学校全体で飼育することになりました。クラスの人たち、同じ学年の人たち、他の学年の人たち、大勢の先生たちと一緒に協力し、毎日必死になってお世話をしていました。

しばらくしてから、1 匹が幼虫からさなぎへと成長しました。その後も、たくさんの幼虫がさなぎになり、やがて成虫のモンシロチョウへと成長していきました。最後の 1 匹が成虫になり、飛び立っていったあとに、理科の先生がこう言いました。

「すべての幼虫が、おとなのモンシロチョウへと成長しましたね。みなさんが真剣に、モンシロチョウと向き合ってくれたおかげで、モンシロチョウの観察だけではなく、命の大切さも学ぶことができましたね」と。

私は、このときの先生の言葉が、当時の私の心にとっても深く響いたことをよく覚えています。初めは理科の授業の一環で、「みんなでモンシロチョウを育てて、成長過程を観察する」という目標でしたが、他の学年の人たちや大勢の先生たちと、毎日必死になりながら、一緒に育てたことで、「命に対する責任の重さ、大切さ」に気づくという、初めの時点では目標ではなかった、別の大きな事柄も達成することができました。

マータイさんのグリーンベルト運動についての文章を読んだとき、私はこの体験を思い出しました。起きていることの規模の大きさは違っても、本質は同じだと思ったからです。

グリーンベルト運動では、植樹をしていくことによって、大勢の一般市民が動員され、民主的な権利を守るために、変化をもたらそうと行動を起こしていきました。そして、グリーンベルト運動の当初からの目標であった、「子どもたちの教育と家庭のニーズのサポートのために、燃料、食料、避難所、収入を提供する」ということに加えて、女性の社会的および経済的地位における権力の獲得という、大きな事柄も達成しました。

私は、どんな小さなことでも一生懸命に続けていると、周りの人たちと一体となり、初めのうちには見えていなかった、大きな事柄も達成することができると考えています。大きなことは高校生だからできないと言って諦めず、小さいことから始めていくことが大切で、マータイさんの言っていた「若者のエネルギーと創造力」につながっていくと思います。



遺愛女子高等学校 2年生 (北海道)

## 駒野 暖さん

### 行動すること、声を上げること

祖父は私が小学生だった頃、アルツハイマー型認知症と診断されました。それは祖父のことが大好きだった私にとってあまりにも辛すぎる報告でした。週末にはバスに乗って通っていた市立図書館、テレビの前で声を上げて応援するほど好きだった野球観戦、名前や電話番号を覚えてもらえるほど頻繁に通っていた近所のコンビニ、今ではそのどれも祖父一人ではできません。

ある週末、祖父はいつものように一人でバスに乗って図書館へ行きました。いつものバスで、いつものバス停に、いつもの時間に帰ってきましたが、その日は、祖父がいつも持ち歩いているカバンを手に持っていませんでした。図書館に電話をしたところ、忘れ物として取っておいてあるとのことなので、後日取りに行きました。しかしまた次の週、帰ってきた祖父の手を見ると、何も持っていません。忘れていたのです。今度は図書館から電話がかかってきました。「他のお客様のご迷惑にもなりますので、今後のご来館はご遠慮いただきたいです」とのことでした。私は、ほとんど人とかかわることのない図書館でさえ認知症の祖父では行くことができないのかと、図書館の利用者、管理者に苛立ちを覚えると同時に、他者と共に生きることの重要性、難しさを感じました。認知症は、私たちの生活においても深刻な問題ですが、その対応には偏見のない親切的な視点が必要であると思います。

社会全体が持続可能な未来を迎えるためには、人々の健康や福祉が整っていることも例の一つに挙げられるでしょう。ワンガリ・マータイさんは、「環境保護や社会的な変革」の重要性、そして「声を上げること」の重要性を説いています。彼女の言葉から私たちが学べることは、個人の行動が集団の変化をもたらす、その変化が社会全体に広がるという点です。私も祖父のケアに関する経験を通じて、友人を始めとした地域の方々に認知症についての理解を深めてもらうために、市で開催される地域共生を目的とした討論会への参加や学校の福祉に関する授業での発言、地域の福祉施設の状況を知るための訪問などの努力をしています。私たち高校生も、小さな一歩を踏み出すことで大きな影響を与えることができるのです。また、私たちには周囲の人々に対して持続可能な開発の重要性を伝え、継承していく役割があります。私たちが意見を発信し、持続可能な開発に対する関心を高めることが、社会を変える力になると確信しています。学校のプロジェクトや地域活動を通じて、誰でも環境保護や社会的な支援の必要性について意識を高める活動を行うことができるのです。このように、一人一人の小さな行動が、持続可能な未来に向けた大きな力となるのだと考えます。





頌栄女子学院高等学校 1年生 (東京都)

野口 なゆみ さん

The baton that has been passed down from ancient times is now ours. It is our turn to be responsible for the environment. Throughout history, we humans have destroyed the environment without concern for centuries and did not notice how serious the situation had become until the late 1900s. This means that the baton we received still has several problems stacked up, and we have a choice: whether we will simply pass this baton down to our next generation or take action and ameliorate the situation.

Today, it is safe to say that more people are aware of our environmental problems and are working hard to be more sustainable. We have many more organizations that work for an eco-friendlier world, and our daily lives have changed too, such as through use of eco-bags rather than plastic bags. However, despite that fact, all we see on the news is that our environment is being harmed much more than before. I became very curious about the cause and realized that it is because each and every person has their social issues that they think are important, which simply means that we are not looking at the same goal. Because we care so much about everything, we are working hard to solve these problems all at once, which is nearly impossible.

What we can do is focus on one problem, but which one should it be? The answer has already been given by Wangari Maathai, an environmental and political activist who founded the Green Belt Movement back in 1977. In her speech, she claims that solving an environmental problem will link to democracy and peace. In her activity in the Green Belt Movement, she planted over 30 million trees in Africa to provide fuel, food, and shelter. However, this action led to many more positive effects: it provided income to support children's education and household needs, enabled women to gain social and economic position and power, and led citizens to defend democratic space. Just like this, Maathai contributed to solving various social issues, starting from environmental problems. This is in fact a strategy that we should learn and put into practice at present.

The more time passes, the worse the problems we are facing get. Although focusing nearly only on environmental problems and trying to solve them might sound risky and scary, we have to take action for the next generation to receive a better baton from us. As Maathai says, "In the course of history, there comes a time when we have to shed our fear and give hope to each other. That time is now."



優秀賞



神戸大学附属中等教育学校 2年生 (兵庫県)

櫻井 海斗 さん

As a high school student, I had honestly resigned myself to the belief that solving large-scale issues like sustainability and peace was beyond my reach. However, after reading Wangari Maathai's writing, I began to think that by holding such a view, I might actually be pushing these problems further from their solutions. Of course, I am not arrogant enough to believe that I alone can resolve these issues. Yet, it is an undeniable fact that if I give up, there will be one fewer person working towards their resolution. Therefore, I believe it is important for me, as well as for everyone who will take on future responsibilities, to think about these issues. At the very least, for those who have the capacity to think.

However, merely thinking is not enough if done aimlessly. Although thinking is undoubtedly better than not thinking at all, it will not lead to progress or initiate action. So, what should be done? I can answer this question with firm conviction: it is to accumulate knowledge. Before contemplating issues, one must absorb and digest information in their own way. Knowledge is necessary for thought. For example, in literary studies, knowing that mid-19th century French literature had many realist works or that aestheticism was an antithesis to progressivism can broaden and deepen one's thinking. Additionally, understanding how people in the past thought is also beneficial.

Currently, this is what I am doing—learning about Wangari Maathai's thoughts, interpreting them in my own way, and writing about them. Through the repetition of such activities, I believe we, as humans, are nurtured. At the same time, the intentions of our predecessors are carried forward. Those who inherit this knowledge and mindset expand it to the world, and activities based on their beliefs in what is right begin. This is how the future is created. Even if starting as just one person or as a high school student, there is something we can do for a better future. That is exactly what I have just described. Initially, starting from one person, if that spreads to the world, it can create a significant wave that involves the world, much like Wangari Maathai did. Therefore, first, I will follow in the footsteps of those who came before me and acquire knowledge. Thinking will come afterward. Believing that such steps will lead to room for future contemplation, I, at least, wish to continue learning.

Additionally, as she said, we have the energy and creativity to shape a sustainable future, but at the same time, we also run the risk of using them in the wrong direction or missing the opportunity to use them. To avoid that, I believe we need knowledge.



女子学院高等学校 1年生(東京都)

## 清水 知佳 さん

### 「森林を増やして、生物を増やす」

これは、小学校の卒業アルバムに載っている私の将来の夢だ。私は自然が大好きだ。小さい頃はよく森を駆け回っていたし、生物が大好きで昆虫やカメや魚など多くの生き物を飼っていた。だが、私が知っているほんの10年弱のあいだですら、自然の減少が感じられるというのが、地球の環境問題の現状だ。昔たくさんのザリガニやカエルがいた池はコンクリートで埋められ、昆虫や蛇がいた森の木は伐採されてしまった。

小学5年生の時、SDGsについて調べて新聞を作る課題があり、私は「陸の豊かさを守ろう」をテーマに選んだ。その新聞には「森林は、空気や水、食料に至るまで、生命を維持するために大切な役割をもち、約16億人が森林に生計を依存している」と書いてある。持続可能な開発の必要性を改めて実感した。また、貧困層の75%が土地劣化の影響をうけているそうだ。土地劣化を改善するには多額な費用が必要なため、貧しい国では土壤改良を完璧に行うのは難しいのだろう。環境問題は環境だけの問題ではなく、貧困も関係している。そして、マータイさんもおっしゃるように、民主主義や平和とも繋がっているのだ。日本だと、ある程度生活が守られているため、生活が脅かされるというのは、想像がつきにくいかもしれない。だが、環境の破壊によって、生活が脅かされている人々もたくさんいることを忘れてはいけない。

環境破壊は、森林などといった陸上に限った話ではない。去年の夏、生物部の合宿で海に行った際、砂浜に流れ着いたものを拾う活動をした。生物の骨なども見つかったが、ガラスやビンといった人工的なものが圧倒的に多かった。海外のビンが日本に流れ着くということは、相当な量のゴミが海に漂っているということだ。一方で、沖縄でシュノーケリングをした際、綺麗で魚がたくさんいる海を、身をもって体験することができた。美しい自然を肌で感じて、この自然を守りたいと強く思った。

マータイさんがグリーンベルト運動を始めた1977年は、まだ地球全体の環境を良くするという発想も、環境開発と民主主義と平和を結びつけて考えるという発想もあまりなかっただろう。そんな時代に、1人の女性が働きかけ、運動を長く続けたことで、今では世界全体で考えられている問題となった。その活動をする勇気と実行力は素晴らしいものだと思う。私も世界のために、地球のために、そして未来のために、自分にできることをやりたいと思う。



開  
発  
・  
民  
主  
主  
義  
・  
平  
和

持  
続  
可  
能  
な

高校生が  
考えること

## 募集要項

### 【募集内容】

裏面の英文を読んで、「持続可能な開発・民主主義・平和 ～高校生の私が考えること～」をテーマにしたエッセーを書いてください。英語の場合は400words程度、日本語の場合は1000～1200字程度。必ずマータイさんの言葉に触れてください。

### 【応募資格】

高校生（国籍・学年・性別・居住地は問いません）

### 【応募方法】

所定のGoogleフォームにエッセーを記載して応募（郵送・持ち込みは不可）。

### Googleフォーム

<https://forms.gle/YFRTJG3dD7VD8rUw6>

※Googleフォームは下書き保存ができません。  
Wordファイル等にて下書きを作成してから所定の  
Googleフォームにコピー・アンド・ペーストしてください。



### 【応募期間】

2024年8月1日（木）～9月2日（月）12:00受付締め切り

### 【表彰】

最優秀賞1名（賞状及び副賞5万円を贈呈）  
優秀賞若干名（賞状及び副賞1万円を贈呈）  
受賞者は、9月中に津田塾大学Webサイトで公表します。最優秀作品は津田塾大学において表彰し、津田塾大学広報誌『Tsuda Today』と津田塾大学Webサイトに、優秀作品は津田塾大学Webサイトに掲載・公表します。なお、応募作品の著作権はすべて津田塾大学に帰属します。

### 【問い合わせ】

津田塾大学ライティングセンター  
高校生エッセー・コンテスト事務局  
(TEL: 042-342-5142 E-mail: [essaycon@tsuda.ac.jp](mailto:essaycon@tsuda.ac.jp))  
<https://www.tsuda.ac.jp/aboutus/essay/index.html>

# 応募者在学高校（2024年度）

都道府県	公私	学 校 名
北 海 道	私 立	遺愛女子高等学校
福 島 県	公 立	磐城高等学校
茨 城 県	公 立	藤代高等学校
栃 木 県	公 立	佐野高等学校
群 馬 県	私 立	ぐんま国際アカデミー高等部
埼 玉 県	公 立 公 立 私 立 私 立 私 立 私 立	大宮国際中等教育学校 春日部女子高等学校 星野高等学校 淑徳与野高等学校 狭山ヶ丘高等学校 開智高等学校
東 京 都	国 立 公 立 私 立 私 立 私 立 私 立 私 立 私 立 私 立 私 立 私 立 私 立 私 立 私 立	東京学芸大学附属高等学校 鷺宮高等学校 サレジオ国際学園世田谷高等学校 桐朋女子高等学校 駒込高等学校 広尾学園小石川高等学校 三田国際学園高等学校 三輪田学園高等学校 渋谷教育学園渋谷高等学校 女子学院高等学校 貞静学園高等学校 東京女子学院高等学校 白百合学園高等学校 頌栄女子学院高等学校
神 奈 川 県	公 立 公 立 私 立 私 立 私 立 私 立 私 立 私 立 私 立	横浜国際高等学校 横浜修悠館高等学校 慶應義塾湘南藤沢高等部 山手学院高等学校 シュタイナー学園高等部 函嶺白百合学園高等学校 北鎌倉女子学園高等学校 立花学園高等学校

都道府県	公私	学 校 名
新 潟 県	私 立	翔洋学園高等学校
山 梨 県	公 立	甲府西高等学校
長 野 県	公 立	須坂高等学校
京 都 府	公 立 私 立	北稜高等学校 同志社国際高等学校
大 阪 府	公 立 私 立 私 立	住吉高等学校 近畿大学附属高等学校 桃山学院高等学校
兵 庫 県	国 立 私 立	神戸大学附属中等教育学校 姫路女学院高等学校
岡 山 県	私 立	鹿島朝日高等学校
徳 島 県	公 立	徳島北高等学校
高 知 県	公 立	高知国際高等学校
長 崎 県	公 立	長崎西高等学校
中 国 フィリピン カ ナ ダ ア メ リ カ	その他 その他 その他 その他	上海日本人学校高等部 International School Manila Sands Secondary School Westover School



株式会社栄美通信は、広告代理業として各事業（進学情報事業・企業広報事業・教育広報イベント事業・企業広報イベント事業・進学情報誌出版事業等）の個人情報を適正に取り扱い、個人情報の保護を徹底することが社会的責務であると認識し、「個人情報保護方針」を制定してお客様に安心して弊社のサービスをご利用いただけるよう、全従業員がこの方針に従って個人情報保護に対する取組みを実施しております。個人情報についてのお問い合わせは【お客様相談窓口】TEL 03-3561-0471〔平日10:00～17:00（12:00～13:00と土日祝日を除く）〕





津田塾大学  
TSUDA UNIVERSITY

<https://www.tsuda.ac.jp/>